

兵庫県のコメツキモドキ科

(兵庫県甲虫相資料・151)

高橋寿郎

日本産のコメツキモドキ科 (Languriidae) については、三輪勇四朗、中條道夫両博士が当時の日本産コメツキモドキの総説をされた名著“日本動物分類、擬叩頭虫科” (1937) によって、それまでのこの類の研究の歴史をまとめられるとともに、各種についての分類学的記載をされた。その後中根猛彦博士は戦後に日本産コメツキモドキ科をまとめられ (新昆虫, 11巻, 12号, 1958), さらに原色にて13種の日本産を図説された (原色昆虫大図鑑, 第2巻, 1963)。

最近になって佐々治寛之博士は S.Gupta, T. & R.A.Crowson の研究を紹介かたがた本科の新分類体系と系統について述べられ、日本産のこの類の目録を発表された (昆虫学評論 25巻, 1/2号, 1973)。この目録によると日本産の本科は33種で、そのうち本州に分布しているのは17種ということになっている。佐々治博士のリストにあるNo.30 ~33の種は一応オオキノコムシ科の種として筆者は取扱い、そちらに兵庫県産2種 (すなわち *Cryptophilus obliteratus*, *propinguns*) を報告している。それ故にこの種を除くと本州産コメツキモドキは13種となり、兵庫県下にはそのうち7種しか記録されていないことになる。

生態についての各種に関しての詳しい報告はないように思うが、既に G.Lewis は1883年 “Japanese Languriidae, with notes on their Habits and External Sexual Structure” (Jour. Linn. Soc. Zool. London, X VII; 347 ~361) の中でコメツキモドキ科の分布とその生態の一端、体制などについての貴重な報告を発表しておられる。日本での生態に関しては林 長閑博士がメダケの中に生活するニホンホホビロコメツキの生態を写真で示し解説しておられ、同時にそれまでの日本産コメツキモドキの生態に関する文献と生態の一部の紹介をされているのがあるくらいである (昆虫と自然, 9巻, 7号, p.17, 1974)。

比較的小さいグループであり古くはオオキノコムシ科の1亜科とされていたとのことである。なかなかスマートで金属的光沢を有する美しい甲虫であるが、案外と採集できる個体数が少ない。従って兵庫県下にどれくらいの種が分布しているのか全くわからないのが現状だと思われる。一応調査はこれからということにして現時点でのたたき台となるまとめをしてみることにした。何分貧弱な資料に基づくものであるから多くの脱落があるものと思われ、また浅学のための誤りも多々あるかと思われる。これらに関して御教示、御指導頂ければ幸いである。

Family Languriidae コメツキモドキ科

1. *Anadastus atriceps* (Crotch, 1873) キムネヒメコメツキモドキ

Crotch により長崎産で *Langunia* 属で記載された種である (Ent. Monthl. Mag. IX, p. 185, 1873)

美しい種である。上翅は緑藍光沢を有し、前胸黄褐色を呈する。中根博士の原色図説がある (1963)。分布は本州、九州。割合普通で平地では6月頃草の間などを歩いているということであるが、残念ながら兵庫県下からは次の地で採集ただけでどうも調査不充分のようである。

産地：神戸市烏原 (lex., 13-V-1982, lex., 7-VI-1982)。飾磨郡家島 (lex., 26-V-1978)。

2. *A. filiformis* (Fabricius, 1801) アカヒメコメツキモドキ

本種は Fabricius によってスマトラ産で *Trogosita* 属で記載された種である (Syst. Entom. I, p. 152, 1801)。日本から Crotch が *Languria nigripes* として Nagasaki in Kiushiu, Hiogo in Nipon. Kinkiang Arch Foochow, China を産地に新種記載したものがこの種に該当する (Ent. Monthl. Mag. IX, p. 184, 1873)。

日本では本州、九州、琉球に産するが、東南アジア各地に広く分布している種のように稲の害虫として知られているということである。

三輪、中條両博士 (1937)、中根博士 (1950, 1958, 1963) のそれぞれ図説がある。

筆者は残念ながら県下で未採集だし記録も少ない。県下での分布状況のよくわからない種である。

産地：Hiogo [Janson, 1874]。神戸市御影 [関, 1933]。

3. *A. praetermissus* (Janson, 1873) アオバヒメコメツキモドキ

Janson によって Hiogo, one example on Maiyasan 産, G. Lewis leg. で *Languria* 属として記載された種である (Ent. Monthl. Mag. IX, p. 186, 1873)。

中條博士の図説されたのも G. Lewis 採集の兵庫県産としておられるが、Janson のタイプ標本であるかどうかはわからない (1937)。

図説は三輪、中條両博士 (1937)、中根博士 (1958) のものがある。

兵庫県下では次の記録があるのみ。

産地：Hiogo, Maiyasan [G. Lewis leg., Janson, 1874., Lewis, 1883., 中條, 1937]。

4. *A. praeustus* (Crotch, 1873) ツマグロヒメコメツキモドキ

Crotch により “Distributed as the last species in Japan and China” と記されて *Languria praeusta* として記載されている (1873)。

図説も多くあるし (三輪, 中條, 1937, 中根, 1958, 1963), 比較的はっきりした種で, 本州, 九州に産するほか, 支那, トンキンに分布しており, 日本ではやや普通にいる種である。

兵庫県下にも広く分布しているようである。ただし, 個体数はそれほど多いように思われない。上翅全体が暗色となり藍光沢を有するものがあるとのことであるが, 県下ではこのようなものを採集したことはない。

産地: 神戸市御影 [関, 1933], 下谷上 (2exs., 23- VIII-1979), 押部谷町木見 (2 exs., 3- VIII-1980), 川辺郡猪名川町杉生新田 [仲田, 1979, 1982], 氷上郡 [山本, 1958], 城崎郡来日岳 [高橋, 1976], 宍粟郡水谷 (1ex., 17-VII-1981)。

5. *Pachylanguria lewisi* (Crotch, 1873) ルイスコメツキモドキ

Crotch により “Kawachi, in Nippon: rather abundant by beating” (G. Lewis leg.) として *Languria* 属で記載されている (1873)。さらに Lewis は “It is a common species at Kobe and Nikko and in a few places in Hiogo” と書いている (1883)。

三輪, 中條両博士は G. Lewis 採集の日光産 2exs., 小山産 2exs., 神ノ瀬産 2exs., で もって図説しておられる (1937)。

Harold が *Languria geniculata* として神戸, 小山, 柏木, 奈良等で記載された種 (Mitth. Munch. Ent. Ver., III, p. 59, 1879) も本種のシノニムである。

日本各地に分布していて体形に変化があり 2 つの異名がある (*L. geniculata* Harold, *L. columella* Lewis)。

生態についての詳しい報告はないが, シダ植物の葉柄にもぐって成育するようである (林, 1975)。

兵庫県下では普通に得られる。図説も多い。本種ならびに次の種の属名は佐々治博士によった。

産地: 川西市笹部, 大和 [仲田, 1978, 1982], 神戸 [Harold, 1879, Lewis, 1883, 中條, 1949], 鳥原 (1ex., 1- V-1977), 山の街 (1ex., 17- V-1953, 2exs., 5- V-1955), 藍那 (1ex., 8- VI-1969, 4exs., 29- V-1978, 1ex., 8- VI-1978), 木津 (1ex., 11- V-1984), 三田市内 (2exs., 28- V-1983, Y. Hachiya leg.), 多可郡三谷 (1ex., 8- VI-1975), 神崎郡大河内町砥ノ峯 (2exs., 4- VII-1977), 宍粟郡福知溪谷 (1ex., 20- VI-1976), 音水 (1ex., 10- V-1970, 2exs., 31- V-1970, 1ex., 11- VI-1972, 1ex., 25- VI-1972, 1ex., 30- VIII-1972), 氷上郡柏原 (1ex., 10- V-1953), 城崎郡三川

山〔高橋, 1975〕. 美方郡扇ノ山〔辻, 1963, 辻, 岸田, 1972〕.

6. *P. nigritarsis* (Waterhouse, 1873) クロアシコメツキモドキ

Waterhouse により Awomori Bay産で *Languria* 属で記載された (Ent. Monthl. Mag., IX, p. 187, 1873). 三輪, 中條両博士は G. Lewis 採集品で図説しておられる (1937). 本種もシノニムが多い. 次の種は総て本種のことである (convexicollis Waterh., sodalis Waterh., ingeus Lewis, waterhousei Crotch, pectoralis Waterh., 中根, 1958). 従って中根博士が氷ノ山から *Pachylanguria ingens* Lewis セグロコメツキモドキとして記録しておられる種も本種のこととなる.

図説は中根博士 (1950, 1963) のものがある. 北海道, 本州, 九州に分布しているが, そう多くないようである.

兵庫県下の記録は割合あるが, 真の本種のことであるかどうかよくわからない.

産地: 川西市笹部〔仲田, 1979, 1982〕. 神戸市御影〔関, 1933〕. 宍粟郡音水 (lex., 30-VII-1972). 氷上郡〔山本, 1958〕. 城崎郡三川山〔高橋, 1975〕. 養父郡氷ノ山〔中根, 1953〕. 美方郡扇ノ山〔辻, 1963, 辻, 岸田, 1972, 高橋, 1975〕.

7. *Microlanguria jansoni* (Crotch, 1873) ケシコメツキモドキ

Crotch により G. Lewis の採集品で “A common species throughout Nipon and kiu-shiu” を産地として (L.?) Jansoni と記載された種である (1873).

赤褐色で光沢があり, 小形種 (体長 2.5 ~ 4mm). 日本の本州, 九州から台湾, 支那, インドシナ, インド, ボルネオなどに広く分布する種である.

図説には他に中根博士 (1950, 1963) のものがある.

兵庫県下での記録があまりなかったが, 神戸市内では注意すれば割合案にとれる. したがって分布も広い種のように思われる.

産地: 川西市笹部〔仲田, 1979, 1982〕. 神戸市烏原 (2exs., 4-V-1974, 2exs., 19-V-1974, 1ex., 18-V-1975, 3exs., 1-V-1977, 1ex., 23-V-1980, 1ex., 10-V-1981, 1ex., 27-V-1984). 多可郡三谷 (1ex., 26-VIII-1975).

以上兵庫県産7種のコメツキモドキを記録した. はじめに記したように調査が不十分で資料が少ないことから, ほとんどの種の分布状況もわかっていない. これ以上の種の産出についても更に引き続いて調べていけば増加するものと考えられる.

産地で〔 〕の中のものは記録からの引用, () の中のものは筆者採集, 標本所有のもの.